

第 110 回 アメリカ合衆国の形成

1 アメリカ独立戦争の経過

- 1777 年、サラトガの戦いで植民地軍がイギリス軍を破った。
→ () のヨーロッパ遊説もあり、() ・ () ・ オランダが植民地側に味方して参戦した。
- ロシアの女帝 () の提唱により、ロシア、スウェーデン、プロイセン、ポルトガルなどが () をイギリスに対して結成した。
→ 植民地側を間接的に支援することとなった。
- フランスの貴族 () 、フランスの社会主義者サン=シモン、ポーランド人の () などは、義勇兵として植民地軍に参加した。
- 1781 年、() でイギリス軍が降伏し、植民地軍の勝利が決定的となった。
→ 1783 年、() でアメリカの独立が正式に承認された。
→ () もアメリカ領となった。



第 102 回と合わせて勉強しよう。イギリスがアメリカを海上封鎖したため、アメリカと貿易していたロシアはこれに対抗した。

ロシア皇帝エカチェリーナ2世



ラ=ファイエット

フランクリンに共鳴し、19 歳でアメリカに渡った。その後フランス革命で活躍し、「フランス人権宣言」を起草した。あとで詳しくやりましょう。



コシューシコ

ワシントンの副官を務めた。帰国後、第2回ポーランド分割に抵抗したが、鎮圧された。ポーランドの民族的英雄である。

2 アメリカ独立革命の意義

- 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて、大西洋を挟んだヨーロッパ、アメリカ地域では、革命が相次いだ。
※これを () といい、アメリカ独立革命はその幕開けであった。

• アメリカ独立革命の成功や、「アメリカ独立宣言」の内容は、他の地域にも大きな影響を与えた。

- (1) ラ=ファイエットは、() で中心的な役割を果たした。
→ 「アメリカ独立宣言」に影響を受けた「フランス人権宣言」を起草した。
- (2) コシューシコは、() に対する抵抗運動を指導した。
- (3) スペイン領の () で、独立運動が活発になった。



トゥサン=ルヴェルチュール

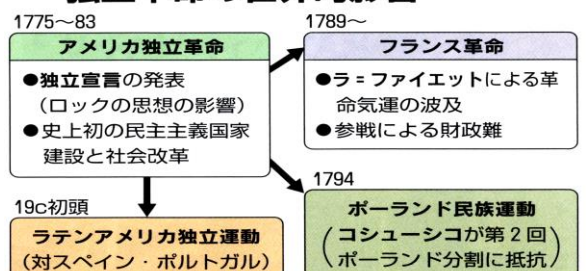
「黒いジャコバン」と呼ばれ、フランス領のサン=ドマング(後のハイチ)で独立運動を指導したが、最後は獄死した。



シモン=ボリバル

クリオーリョとして生まれ、ラテン=アメリカの独立運動に、大きな役割を果たした。ボリビアという国名は彼にちなんでいる。詳しくは第 119 回で。

独立革命の世界的影響



3 アメリカ合衆国の誕生と合衆国憲法の制定

- 1777年、アメリカ連合規約により13植民地は（ ）となった。
→各州が別々に政治を行っており、独立した州のゆるい連合にすぎなかった。
→社会や経済は大きく混乱したため、強力な中央政府が必要とされた。

- 1787年、フィラデルフィアで（ ）が開かれた。
→アメリカ連合規約を改正して（ ）が制定された。

<合衆国憲法の内容>

- (1) 国の権力は、上院と下院からなるアメリカ連邦議会（立法）、（ ）が率いるアメリカ連邦政府（行政）、最高裁判所（司法）に分けられた。
※（ ）の原則。
- (2) 中央政府が軍隊をもつ権利、徴税の権利、外交をする権利など、それまでと比べると強い権限を持つようになった。
→その一方で各州には依然として強い自治を認めた。
※これを（ ）という。
- (3) 主権は人民にあるとされ、（共和政）。
→（ ）。

4 連邦派と反連邦派

- この合衆国憲法に対して、世論は（ ）と（ ）の二つに割れて対立した。

連邦派 … 代表は（ ）。合衆国憲法を支持した。
商工業の盛んな北部は、国内市場を守るために保護関税政策を必要とし、強力な中央政府を求めた。

反連邦派 … 代表は（ ）。合衆国憲法に反対した。
（州権派）プランテーションの作物を輸出する南部は、自由貿易を行う必要があり、州ごとの自治を求めた。

◆（ ）（在任1789～1797年）

- 1789年、ワシントンが初代大統領に就任し、アメリカ連邦政府が発足した。
→独立戦争の英雄が大統領となることで、とりあえず対立は沈静化した。
- ワシントン死後の1800年、（ ）が新たに首都と定められた。



VS.



ハミルトンは、現在10\$紙幣の肖像になっている。決闘で死去。ジェファソンは南部出身のプランターで、南部の利害を代表している部分があった。



アメリカ独立戦争の英雄であり、初代大統領は彼以外考えられなかった。彼が2期8年で大統領をやめたことは、後の大統領に慣例として受け継がれた。

ハミルトン(連邦派)

トマス=ジェファソン(反連邦派)

ワシントン